

ボーリングによる勇払平野沿岸の活構造調査 Boring survey across the active structure along Yufutsu coast

小松原 純子^{1*}, 小松原 琢¹
KOMATSUBARA, Junko^{1*}, KOMATSUBARA, Taku¹

¹ 産業技術総合研究所

¹ AIST

勇払平野は苫小牧港などがある北海道南岸の平野で、北側の山地に石狩低地帯東縁断層帯があり、南側の海域には日高山地南西の沖合海底へ続く褶曲-衝上断層帯がある。また苫小牧東港からこれらの地質構造に平行に、比高 5-10m の西側が低い直線的な崖地形があり、新しい地質時代の断層崖の可能性もある。石狩低地帯東縁断層帯、日高山地南西の褶曲断層帯とのつながりや活動度を見積もるため、また上記の海底崖地形が断層かどうかを確認するため、産業技術総合研究所では海岸沿いの 2 箇所で行った。平成 22 年度には苫小牧東港の苫小牧市弁天地区で 80m のオールコアボーリングを、平成 23 年度にはそれより 4.5km 西の苫小牧市勇払地区で同様に 80m のオールコアボーリングを行った。これらボーリング調査の結果について報告する。

キーワード: 勇払, 苫小牧, ボーリング, 沖積層, 活構造, 沿岸

Keywords: Yufutsu, Tomakomai, bring survey, latest Pleistocene to Holocene incised valley fill, active structure, coastal area